

第6節 高校3年生

生き方を探るⅡ

佐藤 俊樹・加藤 容子
西川 陽子・木下 雅仁
近藤 和雅・寺井 一

【抄録】 附属学校での学習の集大成として「生き方を探る」という大テーマを与えられた高校3年生の総合人間科。本年度も生徒たちは卒業論文の中で、この授業の存在意義や、自分のキャリア形成に総合人間科がいかに関与したかを述べた。

【キーワード】 進路 生き方 キャリア形成 総合的な学習の時間

1. はじめに

高校3年生では、6か年（または3か年）にわたる附属学校での総合人間科の締めくくりとして、卒業後の進路を主体的に探るという位置づけから、「生き方を探る」という大テーマが設定されている。この大テーマどおり、今年度の高校3年生も総合人間科を通して自分の進路を真剣に探ることで充実した学習態度をとることができ、輝かしい進路実績につなげることができた。

2. 学年の目標

自らの自己形成の過程を知り、主体的に生き方を選択することができる力を育てる。進路問題を個人の問題とはせず、系統別グループ内で検討し、実りある進路選択を行うことができようとする中で、総合人間科の目標である「自分の人生を自覚的に選択する力を育てる」ことの達成をはかる。

3. 学習方法

学外でのフィールドワークによって自分の進路決定に関わる人から直接学んだり、スピーチや研究集録の形式で自らの意識を発表する。こうすることで自分の将来に対する認識を深め、総合人間科の目標である「自分の人生を自覚的に選択する力を育てる」ことの達成をはかる。

4. 1年間の活動計画

- 4/12 校長からの講話 作文 進路希望調査
- 4/19 オリエンテーション 進路希望系統別グループ発足
- 5/10 フィールドワーク先検討
- 5/24 フィールドワーク先発表会
- 5/31 フィールドワーク
- 6/7 フィールドワーク先へのお礼状発送
フィールドワーク報告会準備
- 6/28 フィールドワーク報告会：グループ内

- 9/6 スピーチ原稿・研究集録原稿執筆①
- 9/27 スピーチ原稿・研究集録原稿執筆②
- 10/18 スピーチ原稿・研究集録原稿執筆③
- 11/15 生き方に関するグループ内スピーチ
- 11/22 学年全体でのスピーチ
(各グループからの選抜者による)
- 12/6 研究集録原稿執筆

(12/19 提出締め切り)

5. 系統別グループ

本年度の高校3年生では、2年生の2月のうちに進路希望系統別グループ分け調査を行い、その結果を基に3月中旬にグループ分けを完成させた(発表は4月)。2月というと沖縄研究旅行の研究集録が完成した時期に当たり、2か月間の間延びをさせることなく進路意識を高める効果があった。運営方法は例年どおりで、学年団の6名の教諭がそれぞれ17～20名の生徒を担当し、グループ内での取り組みを援助した。どのグループもリーダーを決め、発表会などの運営は生徒が担った。

班	系 統	人数	担当教員
1	人文科学	19	寺 井
2	社会科学	20	佐 藤
3	理学・工学	19	近 藤
4	医療・農学	19	西 川
5	教育・体育・家政・保育	17	木 下
6	芸術・技能・就職	19	加 藤

6. 生徒の取り組み

(1)フィールドワーク（5月31日）

検討開始から本番まで約40日間という短い時間の中、生徒たちはグループ内でよく検討し、自分の進路希望に見合ったフィールドワークを行うことができた。訪問先の一例を以下に示す。

1班 人文科学系統

名古屋大学文学部，教育学部，情報文化学部
愛知県立大学外国語学部
名古屋市立大学人文社会学部
南山大学外国語学部
中日新聞社社会部
JICA名古屋

2班 社会科学系統

名古屋大学法学部，経済学部
南山大学経営学部
名古屋外国語大学外国語学部，現代国際学部
日赤豊田看護大学
慶應義塾大学総合政策学部
ZIP-FM総務部
東海ウォーカー編集部

3班 理学・工学系統

名古屋大学理学部，工学部，環境学研究科，
情報科学研究科
名古屋工業大学工学部
愛知県立芸術大学
名古屋地方気象台
JAXA名古屋駐在員事務所
ポッカコーポレーション

4班 医療・農学系統

名古屋大学医学部，農学部，環境学研究科
名古屋市立大学医学部，芸術工学部
岐阜大学附属動物病院
愛知学院大学歯学部
名城大学農学部
藤田保健衛生大学病院

新城市民病院

5班 教育・体育・家政・保育系統

愛知教育大学教育学部
金城学院大学人間科学部
椋山女学園大学生生活科学部
名古屋リゾート&スポーツ専門学校
名古屋市立矢田中学校，楠中学校
美津濃株式会社
カゴメ株式会社
ひまわり幼稚園

6班 芸術・技能・就職系統

名古屋大学法学部
愛知県立芸術大学
同朋大学社会福祉学部
中日美容専門学校
海上保安庁第四区管理課救難係
千種警察署
名古屋テレビ
(株)リクルート
名古屋鉄道

フィールドワーク実施の約1か月後の6月28日には、各グループ内でフィールドワークの報告会を行った。生徒は一人あたり3分の持ち時間で、動機、話の内容、成果、現在の進路意識などについてスピーチした。この報告会をもって総合人間科は、夏休みおよび学校祭の準備のため中断をした。

(2)生き方に関するスピーチ

学校祭「光粒祭」でエネルギーを燃焼した後の9月末、次なる取り組みである生き方に関するスピーチの説明を行った。若干名は夏休み中に原稿執筆を行っていたが、ほとんどの生徒はセンター試験の出願が始まるこの時期になってスピーチ原稿を書き始めた。受験に向けて家庭学習が大切であることはよく認識しており、自分の負担にならないように総合人間科の時間に集中して執筆を進める姿が印象的であった。

スピーチの原稿はそのまま卒業論文に発展させることが可能であり、どの生徒も12月に締め切りを迎える卒業論文を視野に入れて書き進めた。また、AO入試や推薦入試を受験する生徒にとっては、原稿の執筆が入試にお

ける小論文や面接対策にもなり、実際、高い合格率となつてその効果を示してくれた。

11月15日にまず各グループ内で全員が約3分の持ち時間でスピーチを行い、その中から3名を投票によって選抜し、翌週には各グループからの選抜者により高校3年生全員の前でもう一度スピーチさせた。以下に選抜者によるスピーチのタイトルを示す。

私と異文化
サッカーと自分
人の心を追い続けて
〇〇の考え
俺の経済史
黒歴史
終わりよければ全てよし
「強敵」
私のターニング・ポイント
プロローグ
農学について
一流のスポーツ栄養士になるために
わたし
スポーツに出会って変わった自分
〇〇〇〇の作り方
「人」は支え合って生きている
「Fantasyに生きる」

(注) 〇〇には個人名が入る

代表者のスピーチでは、生徒全員が書いた感想をスピーチ者に渡して、他者の視点から自分を見つめ直すことができるよう配慮した。以下にその一例を示す。

〇〇くんの行動力には驚きました。どんなことでもあきらめるのではなく、やってみることは本当に大切なですね！私も何かあったら、ムチャでもやってみようと思います。

私は〇〇さんと出会えて、友達になれて本当によかったと思います。おしゃべりをする時に、特に異文化についての話題をしたりはしないけど、〇〇さんと仲良くなったのは“共通”のものがあつたからだと思います。なので私は異文化をもつ人と出会うことがあれば、共通のものを探し、それから異文化を理解していきたいなあと思います。

よくぞ勇気を出して話してくれました。引き込まれました。私は実際にいじめの現場をみたことがあります

。なので、“おやっ”と思ったら声をかけてみようと思います。

僕も幼い頃からの夢がありました。その夢は今の僕の望むものではありません。やりたいことではありません。長い間持っていた夢でも自分に適しているとは限らないと思うので、〇〇さんの進路決定は正しいと思います。僕からみると薬剤師は適していると思うけど、〇〇さん自身が合っていないと思ったらやっぱり合っていないと思うので、今の新しい夢を大切に、是非かなえてほしいです。がんばってください。

私は今まで〇〇さんの優しさ、思いやりに何度も何度も助けられました。世間には様々な人がいます。私の常識を越える人をたくさん見かけます。はっきり言って、見ていて気持ちのよい行動とは思えません。そんな人たちが増えつつある日本の社会に歯止めをかけられるように、頑張つて夢を現実のものにしてください。

これらのように、温かい励ましのことばや素直な感想を書くことで、書いてもらったスピーチ者の自信になるばかりでなく、書いている本人もスピーチ者から教をもらおうという相互の学び合いを実現することができた。また、このような雰囲気は受験本番に向かって生徒が一体となって立ち向かおうとする団結心を、否応なしに引き起こすことになった。

(3)卒業論文

代表スピーチのあと2週間、後期中間考査をはさんで12月6日が卒業論文の締め切りという過密スケジュールの中、月末まで提出が伸びる生徒が数名いたが、約2000~3000文字という卒業論文を全員が完成させた。学年大テーマ「生き方を探る」に基づき、これまでの人生をじっくり振り返る者、これからの長い人生に思いを馳せる者、さらには過去の総合人間科での研究成果にさらに踏み込んだ者など、さすが最終学年と思わせる充実した内容に仕上がった。卒業論文タイトルは以下のとおりである。

1班 人文科学系統

私は何を学んできたのか？
18eighteen
出会いの中に生きる
六年間の“総合”
〈〇〇史〉
今の風を感じて

だから外国語を学ぶ
Youth Camp and Exchange Friends
Soccer
ぼくのchemin～みち～
私を見つけた私
いま思っていること
出会い
LEVEL EIGHTEEN !!!
僕と名大附
* 6年間のまとめ*
My self～名大附で見つけたわたし
現実の国のアリス
こころのヘルスケア

2班 社会科学系統

わたしの道
選択に必要なもの
In life, every ending is just a new beginning.
黒歴史
俺と資本主義。
MY TELEVISION THEORY
琉球王国とその貿易に関して
Reach For My way
Road
学びを活かす
Letter to my future
私はそう教わったし～思い出は重いで！！～
6年間を通して見つけた自分の道
宛名のない手紙
“平和へのかけ橋”を目指して
本当の人間になりたい
〇〇の考え

3班 理学・工学系統

高校三年間
自分史を書くという事
今自分
終わりよければ全てよし
「ロボット」とは～無限の可能性と残された課題～
迷い⇒ギターへの熱中⇒海洋環境、工学への興味⇒ 大学受験へ…という3年間から僕が得たもの
ゲーム随筆
ぶろぐらみんぐすいみんぐ
自分の考えた道
KeNチック症候群
科学を学びたい
経験
自分を見つめて6年間の総合人間科を通して
わたしの未来予想図
自分を考察する
CHAOSTYLE
出会いを軸に生き方決定の足跡を探る
野球から得たもの
DESIGN INTERESTING !

4班 医療・農学系統

わたしとは
私小説（じぶんしょうせつ）
「自分録」
医療の未来－薬について－
ボクの小さな小さな野望
自分と向き合って。
私の好きなもの
農農白書
過去→未来
自分の進路を見つめ直してみて
〇〇〇〇の今まで
自分の進路私のやりたい2つのこと

自分史今の自分ができたわけそしてこれから
人生時間午前6時
高校生活の歩み－総人の歴史と自分の歴史－
看護師になること
ココロ解体新書 －自分の人生について本気出して語ってみたスペシャル－
経験と出会い
Sho Hey Jump !

5班 教育・体育・家政・保育系統

先生の品格
“私とピアノ” ～私にとってピアノとは～
夢を叶える第一歩
その未来の介護社会に・・・
Try My Luck
I ♥ U 幸せはここにある！！
私の理想
「一流」
Road of (the) Asuka
秘密の重さ・BLTサンドからトマトを抜く
夢のキセキ (軌跡)
生き方を探って
笑顔は世界を救う！！ ♥私の未来地図♥
夢を現実に
今の私が思うこと
The Way to “Teacher”
SPECIAL ♥ THANKS

6班 芸術・技能・就職系統

経営者への道
Art of Life
されど波風体験－僕はここで変わった－
心ころころココロころ
さらに広くもう少し深くなるとなく
あゆみの歩み

6年間で大きくなりました
Dで色付けてあのGが泣ける切れ端
「人」は支えあって生きている
自分を表現するということ
“伝える”ということ
MY Ambition
○○○○の作り方
ゆきみのあゆみ
ミチシルベ～AROAD DREEEEAMS～ 夢の数だけ愛が生まれる
「誇れる仕事」を・・・
はじめの一歩
Fantasy Op. 1
世界への視点の変化

附属学校での生活を振り返った卒業論文の中で、最後のまとめのところで総合人間科について触れたものの抜粋を以下に示す。いずれも総合人間科の存在意義や、自分のキャリア形成に総合人間科が果たした役割の大きさを感じさせるものである。

この論文を通して、自分を見つめ直すことができ本当によかったと思うし、今までの6年間、私を支えてくれた人達への感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。私はまだ18歳で、これから先、もっとたくさんを経験すると思うけど、死ぬまでスポーツに関わり、健康な身体でいつまでも成長し続けていきたい。

自分が興味を持ったことに対してテーマを立てて研究することの面白さを教えてくれた総合人間科、そしてご指導をいただいた先生方には心から感謝を申し上げます。総人で得たこの精神はこれからも持ち続けていきたいものである。

自分で興味を持っていることを自由に調べられるのが総人の魅力だと思います。この6年間で、意欲を持って自ら学ぶことの大切さを知りました。将来いろんな問題に遭遇すると思います。でもその意欲さえあれば、どんなことでも解決は可能だと思います。総人で学んだことを、今後の人生に十分役立てていきたいと思っています。

名大附で3年間自分の興味のあるテーマで総合人間科を勉強してこれたのは本当に意味のあることだったと思う。自分には将来何をやりたいかが漠然とあったが、それを具体的にできたのが総合人間科だった。小さい頃から動物に興味を持っていた。総合人間科で自分の興味のある内容を探求して、動物・自然に関する仕事に就きたいという気持ちが以前よりもさらに強くなった。

自分にとってこの3年間というのは、やりたいことをやっと発見することができた時間となった。一つ後悔をすることがあるとすれば、そのやりたいことを見つける時期が遅く、少なからず自分の進路に影響を及ぼしたことである。また、高校3年生になって総合人間科で環境問題について調べてみたが、今思うと、高校生の早い段階、さらには中学2年生の総合人間科のときにも何か少しは関連のあることを調べておけばよかったと思う。しかし、進路を決定するまでの経験は今の自分には心理的にも欠かせないものとなっており、この経験がなかったら、今の自分はなかったと思う。この学校で学んだことは書ききれないほどたくさんある。僕は今までの経験、特に総合人間科を通して得たものが、大学に入っても必ず役に立つだろうし、また、その後の人生においてもかけがえのないものになるだろうと信じている。

我々名大附の生徒は、総合人間科という授業を通じて、将来に向けた「目的探しの場」を与えられてきた。そしてこの授業に真剣に取り組んできた結果、我々は目的意識を持ってこの学校を卒業することができ、これから先、自分の進路を全うすることができる。このことは我々にとって非常に大きな財産となるはずであるし、我々はこの授業に取り組んできたことを誇りに思うべきである。「大学のスタートラインでの差は0である」と述べたが、むしろ我々はすでに一歩前からスタートしているといっても過言ではないのである。このような授業には賛否両論あると思うが、永久に名大附には総合人間科を残すべきだと思うし、また、名大附の先生たちがこの授業の効果・方法・重要性を正しく伝えていくことで全国に広まればよいと思う。最後に、今まで私の研究に協力していただいた全ての人々に、心から御礼申し上げます。

7. おわりに

附属学校の出口にあたる高校3年生の総合人間科では、自分の人生を真剣に考え、間違いのない進路選択をさせることを主眼として活動した。生徒たちは校外へのフィールドワークによって自らが希望する進路をより明確にし、グループでの学び合いによって刺激し合うこと

で、高いレベルのスピーチや原稿執筆を行うことができた。

「総合的な学習の時間」は学習指導要領の改訂により削減の意向が強いようである。しかし、113名の生徒が書いた卒業論文はその存在意義をはっきりと示しているといえるのではなからうか。大学に合格する学力にとどまらない、進学後も活躍できる「確かな学力」や「生きる力」を総合人間科で培った卒業生を今年も世に送り出したと、卒業論文を読むと実感しないわけにはいかない。今こそ「総合的な学習の時間」の効果を強くアピールしたいものである。

(文責：佐藤 俊樹)